

学校支援ボランティアハンドブック

つながろう、広げよう、 応援の輪

～ 地域で育てる子どもの未来 ～



これは、ボランティアを行いたいと考えている地域の方、学校支援ボランティアを依頼したい小中学校、そして、地域と学校をつなぐ教育コーディネーターのための手引きです。

芽室町教育委員会

～ 目 次 ～

めむろ郷育・夢育応援団員（学校支援ボランティア）の方へ

ボランティアって何？、ボランティア活動の4原則	1
学校支援ボランティアとは？	2
どんな支援ができるかな？	3
活動前の打ち合わせ、ボランティア活動で気を付けること	4
活動終了後は	5

学校はどんな準備をしたらいいの？（受け入れくださる先生方へ）

学校支援ボランティアとともに	7
学校支援ボランティアの迎え入れ	8
活動終了後は	10
基本的な学校支援ボランティアの流れ	11

学校とボランティアをつなぐために(教育コーディネーターの方へ)

学校支援ボランティアのコーディネートが求められています	12
コーディネートの仕組み	13
コーディネーターって何をやるの？	14
コーディネーターの心得	15

めむろ郷育・夢育応援団員

(学校支援ボランティア)の方へ

ボランティアって何？

誰もが、自分でできることを自分の意思で周囲と協力しながら無償で行う活動のことをいいます。

ボランティア活動の4原則とは

①自主性

他から強制されたり、義務として行うのではなく、自ら進んで行う活動

②社会性・連帯性

誰もが生き生きと豊かに暮らしていけるように、支えあい、学びあう活動

③無償性

経済的な報酬を求める活動ではなく、出会いや感動、喜びを得る活動

④創造性・開拓性

社会で何が必要とされているのかを常に考えながら、様々な視点から活動を見直し、よりよい社会を自分たちで造る活動

子どもたちのために何かしたいけど、何かできることはあるのかな？



学校支援ボランティアとは？

- 子どもたちのために何かしたい
 - 自分の得意なこと、知識や技能を生かしたい
 - 子どもたちに伝えたいことがある
- など。。



「子どもたちの教育のために役に立ちたい！」
という熱い思いを持って、学校の教育活動や学
校の環境整備などを支援するボランティア活動
です。



学校もみなさんの力を待っています！！

～活動の特色～

- できる人が、できる時に、できることを支援します。
- 学校の先生や子どもたちと一緒に活動し、学校をよりよくしてい
く活動です。
- みなさんの経験や専門性を生かす活動です。

どんな支援ができるかな？

図書の整理ならできそうだ

めむろの歴史を
教えたい

パソコン授業の補助
をやってみようかな

学校の掃除を一緒に
やりたいな

ミシン実習の補助
ならできる



スキーとスケートの
指導はできるよ

印刷業務のお手伝
いをしようかな

※学校によって、様々な支援を必要としています。

活動前の打ち合わせ

教育コーディネーターを通じ学校支援ボランティアとして活動することが決まったら、学校と十分な打ち合わせをしましょう。

- 当日の学校についてからの動きと活動場所などを確認しましょう
- 学校のねらいや子どもの様子について確認しましょう。
- 活動内容については、自分の考えを提案しましょう。

ボランティア活動で気を付けること

ボランティア活動をするときは、次のことに気を付けましょう。

- 明るく挨拶をしましょう。
- 活動を通して知り得たプライバシーは、絶対に他人に漏らさない。
- 学校や先生の批判を子どもの前で、絶対に言わない。
- けがや事故のないように活動しましょう。
- ボランティア活動のために体調や生活リズムを崩さないよう、無理のない範囲で、楽しく活動しましょう。
- 活動の中で気づいた点は、遠慮せずに学校や教育委員会等に報告しましょう。

活動終了後は・・・

◎活動の振り返りを行いましょう

活動終了後、先生方との話し合いを持ち、活動を振り返ってみることは、次回のボランティア活動を充実させるために必要なことです。この振り返りを行い、よりよい活動につなげましょう。アンケートの記載にもご協力をお願いいたします。

◎ボランティアの輪を広げましょう

ボランティア活動は、一人だけで行うよりも、お互いアドバイスをし合うなどして仲間とともに行う方が資質を高めることができます。自分ひとりの考えでは判断に迷うこともあります。仲間やたくさんの人に相談しながら、力を借りながら、広い視野で考えていくことがよりよい活動につながっていくでしょう。

◎教育コーディネーターを利用しましょう

ボランティア活動をしたいという気持ちを持っていても、なかなかすんなりと活動に入ることができないかもしれません。学校が活動の受入に消極的だと感じることもあるかもしれません。しかし、学校としてもよく知らない人に、子どもとの活動や施設整備を任せることに不安を感じているはずで、また、何か協力し

たいと言われても、何を依頼すればよいかわからないこともあります。

そこで、ボランティアと学校をつなぐ教育コーディネーターに相談してください。芽室町では中学校区ごとにコーディネーターを配置しています。コーディネーターを通すことでボランティア活動をスムーズに行うことができるようになり、学校との関係もより良いものになるでしょう。

☆ボランティア活動保険への加入（無償ボランティア対象）

ボランティア活動をするにあたり、芽室町町民活動総合保障制度に加入します。これは、町で町民対象に加入しているものであり、学校支援ボランティア活動中に事故に遭った場合や怪我をされた場合、また、他人に損害を与えたことにより損害賠償問題が生じた場合に、かかる費用を補償するものです。



学校はどんな準備をしたらいいの？
(受け入れくださる先生方へ)

学校支援ボランティアとともに

生涯学習社会における学校は、地域に支えられ、地域に貢献するという「地域に根ざした学校」としてとらえることが大切です。

そのためには、学校をより開かれた存在にするとともに、地域住民による多様なボランティアの場として充実させていく必要があります。

学校でボランティア活動を行ってもらおうと学校の負担が増えると考えがちですが、学校支援ボランティアの活動は学校にとって多くのよいことがあり、ボランティアや地域の人たちと協働することで、活気ある学校教育が可能になります。

「地域と一緒にあって、子どもを育てる」という考え方ですね。



学校支援ボランティアの迎え入れ

～事前の配慮事項5つのポイント～

1. ボランティアの気持ちを大切にしましょう

活動内容を一緒に考えるなどして、ボランティアの考えを尊重し、「思い」や「やる気」を十分に引き出しましょう。

2. 連絡を密にしましょう

初めて学校に来てボランティア活動をする人は、不安でいっぱいです。あらかじめ、教育コーディネーターを通して打ち合わせを行いましょう。

3. ボランティアの居場所を用意しましょう

活動の準備等のための場所を作りましょう。独立した部屋でなく、職員室の一角でも構いません。もし、独立した部屋を準備できるなら、活動の写真等を掲示したり、伝言板を設置したりして、ボランティアと先生・子どもたちとの交流の場に発展させるとさらによいでしょう。

4. ボランティアを全教職員で気持ちよく迎えましょう

朝の打ち合わせ等でボランティアの来校予定を伝え、教職員間の共通理解を図りましょう。そして、全教職員で気持ちよく迎えましょう。

5. 子どもたちにも説明しておきましょう

ボランティアの方が何のために来校しているのか、事前に説明しておくことが大切です。学校生活が、地域の方々に支えられていることを理解できるような事前指導を心がけましょう。

～先生のための5つのポイント～

1. 笑顔で明るい挨拶をしましょう

学校支援ボランティアにとって、学校は緊張する場所です。職員室も気軽に入出入りできる場所ではありません。まず笑顔であいさつ、そしてともに活動を進める中で、互いに信頼できる関係を築いていきましょう。

2. 学校支援ボランティアとのパートナーシップを築きましょう

学校支援ボランティアは、「部外者」ではありません。ですから来校時にはお客様扱いをせず、一緒に活動をする「関係者」として対等な立場で活動しましょう。子どもたちとともに育む大切なパートナーです。お互いに尊重し合い、子どもたちへの活動をすすめましょう。

3. 活動に対するアドバイスをしましょう

学校支援ボランティアは、活動をしながら自分自身も学び、向上したいと考えています。ですから活動後にアドバイスを求められたら、活動の中でよかったことや気づいたこと、工夫してほしいことを伝えましょう。

4. コミュニケーションの場を持ちましょう

学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場を作り、たくさん話をしましょう。お互いの思いが伝わり、スムーズな活動につながります。

5. 子どもと一緒にボランティアから学ぶ体験をしてみましょう

学校支援ボランティアは、多くの知識や体験を持っており、先生とは異なる視点から新しい課題を見つけたり、提案したりするなど学校にとって新たな発想や工夫をもたらします。きっと何かを学ぶことができると思います。逆に、ボランティアも先生や子どもたちから学んでいます。

活動終了後は・・・

◎活動を振り返りましょう

次の活動へとつなげるために、ボランティアの方と活動内容の成果や課題、改善点などについて話し合しましょう。また先生方の共通資料とするために、話し合いの記録を残しましょう。

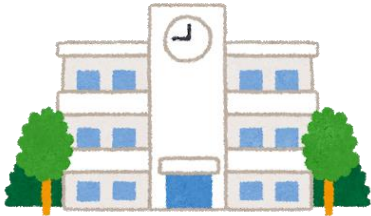
◎ボランティアを学校の宝に

子どもたちのために進んで来てくれるボランティアの人たちをいつまでも声を掛け合える支援者として、学校の”人材”としましょう。子どもたちの手紙や学校行事の案内などを送付し、学校へ足を運んでいただくことで、子どもたちの実態や学校の様子を理解してもらうチャンスになります。学校への理解がさらに深まり、先生や子どもたちとのコミュニケーションも生まれ、スムーズな活動につながります。



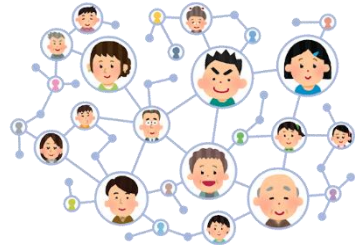
基本的な学校支援ボランティア活動の流れ

学 校



こんな活動をボランティア
にお願いしたい

ボランティアをする人



子どもたちのために何か
ボランティアしたいな

教育コーディネーターに相談しよう！

学校と学校支援ボランティアの調整

ボランティア活動の決定

事前打ち合わせ

ボランティア活動実施

ボランティア活動の振り返り

次のボランティア活動

学校とボランティアをつなぐために (教育コーディネーターの方へ)

学校支援ボランティアのコーディネーターが求められています

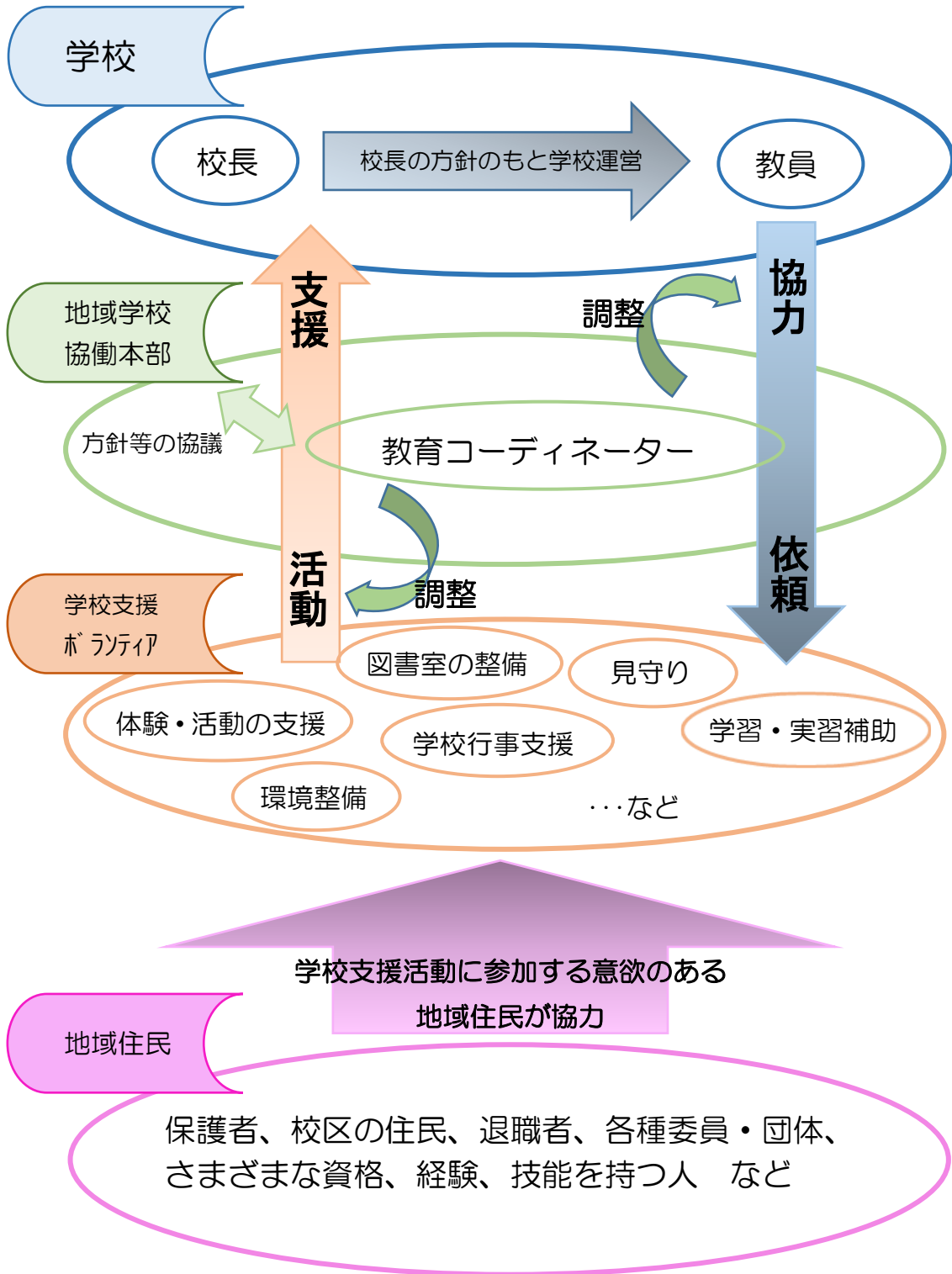
学校教育活動のねらいと学校支援ボランティアの活動に対する思いや考えをつなぐ役割をしてくれる人を教育コーディネーターと呼びます。コーディネーターは、ボランティアと学校を結びつけるだけでなく、両者の思いやねらいを受けとめ「協働」という対等な関係で、一緒に活動を作り上げていくための調整をします。

芽室町では中学校区ごとにコーディネーターを配置しています。また、学校でのボランティア活動が円滑に行われるよう、定期的に担当区内の学校を訪問し、双方の相談にも応じます。

コーディネーターは、地域と学校のつなぎ役として、ボランティアの活動の輪を広げる役割を担うのですね。



コーディネート仕組み



コーディネーターって何をするの？

知らせる

学校が必要としているボランティアの情報を地域へ伝え、ボランティアを募ります。また、学校支援ボランティアの考えていることや希望などを学校に伝えます。実際の活動の様子についても地域や学校へ伝えます。

つなぐ

「ボランティア活動をしたい」と思っている地域の住民と「ボランティアの応援がほしい」と思う学校の希望や提案を調整し、活動に結びつけます。つなぐ役割を果たす前提として、ボランティアと学校双方の思いをきちんと引き出さなければうまく結びつけることができません。その引き出し方も大切です。また、担当校区内のボランティアの情報収集と整理をします。

育てる

ボランティアの活動がより良いものになるよう、必要に応じボランティアと先生の交流の場を提供します。また、ボランティア、先生と一緒に活動案の作成などについても協議します。

支える

「ボランティア活動をしたい」という地域住民の思いや、「ボランティアの支援がほしい」という学校のニーズを受けとめます。ボランティアと学校の思いは、必ずしも一致することばかりではありません。学校がボランティアの活動に不安や不満をもったり、逆にボランティアが学校の受け入れ態勢に不安や不満をもつことがあります。ボランティアと学校の思いをうまくつなぎ合わせながら活動を支え、継続できるよう、状況に合わせた対応の工夫をすることが必要です。活動内容の相談や活動後の感想等についても受けとめ、必要に応じて励ましたり、アドバイスをしたりします。

コーディネーターの心得

～コーディネーターのための5つのポイント～

1. ボランティアと先生、子どもたちが、同じ思いをわかちあえる活動となるよう心がけましょう

ボランティア活動は一方通行ではありません。一緒に活動することで、お互いに学ぶ双方向の活動です。思いを分かち合える活動になるように心がけましょう。

2. ボランティアと学校の両者が、対等に話し合えるよう工夫しましょう

ボランティアと学校が対等になってはじめて、協働が生まれます。「一緒に活動」となるように工夫しましょう。

3. 次の活動につながるよう、活動後には必ず声掛けをしましょう

よかったところをほめること、言葉かけをすることは、コーディネーターとしての大切な役割です。アドバイスとともに忘れずに励まし、勇気づけましょう。

4. コーディネートを通じて見えてきた課題は、ボランティアにも学校にもきちんと伝えましょう

コーディネーターは、ボランティアと学校の両者の声を聞くことで、問題点や課題に気づくことができます。よりよい活動にするため、問題点や課題はきちんと両者に伝え、一緒に解決策を考えましょう。

5. 知り合いを増やしましょう

コーディネーターに大切なのは、何を知っているかよりも誰を知っているかです。色々な人と知り合い、広くつながってよい関係を作っていきましょう。